

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500902		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホーム癒音		
所在地	徳島県板野郡北島町中村字中内26		
自己評価作成日	平成26年7月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年10月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の名前の通りに入居者の方々に癒しの場とっていただけるよう支援している。また、入居前の状況を十分に考慮し楽しみのある生活を送っていただけるようご家族と協力し、支援している。地域に密着した生活が送れるよう入居前からの主治医に通院したり地元の社会資源を利用するようにしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、全職員で話しあって地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。地域の一員として町内の行事に参加したり、地域の保育所や小・中学校との交流を図ったりして、地域住民との触れ合いを大切に活動している。食事は、献立から買い出し、調理、準備、後片付け等のすべての行程を、利用者と職員で行っている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでおり、笑い声の聞こえる家庭的で和やかな雰囲気となっている。ホールや廊下、畳の間、花壇のある広い庭、2階のウッドデッキなど、温かみのある空間は、明るく広々としている。職員は、ヒヤリハット事例等を検討しつつ、利用者一人ひとりが安全で自由に暮らすことができるよう支援している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げている。また法人全体の理念と共に朝礼時に唱和し、実践に繋がるよう確認し、意識づけを行っている。	全職員が話しあい、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成している。毎朝と日中の申し送り時に理念を唱和しており、職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のイベント・運動会等への参加、また近隣中学校との交流がある。買い物会等で地域住民と交流が図れるようにしている。	事業所として地域の各種行事に参加している。中学生の職場体験を受け入れ、送迎を行うなどして小学生ボランティアや園児との交流を続けている。日頃の散歩時等に近隣住民と交流するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い高齢者また高齢者を抱えている家族へなにか困ったことはないか呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・役場職員等に参加して頂き、そこで出た意見・要望について職員間で周知、検討を行いサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域の代表者、町担当者等の参加を得ている。会議では、行事等の報告以外に、認知症について学習したり、感染症や災害対策等について意見交換を行ったりしている。出された意見等は検討し、運営面に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月報等により現状報告を毎月行っている。	毎月、町担当窓口を訪問し、各種報告書や避難訓練の計画書、行事の案内チラシ等を持参している。また、地域包括支援センターの主催する研修会にも参加するなどして協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会で身体拘束についての学習を行っている。現在身体拘束の対象となる入居者はいない。	年間の研修計画に基づいて身体拘束について学習しており、全職員で禁止対象となる具体的な行為について理解を深めるよう努めている。玄関の施錠を含め、つねに安全に配慮しつつ、拘束感のない自由な生活の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会で虐待、倫理についての学習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、全職員が把握できるように努め、相談があった場合には対応ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず重要事項説明書にて説明を行い、疑問点等がないかを確認している。疑問点があれば回答をし、納得いただいてから契約を結び利用していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には気軽に何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。意見・要望が出た時には改善に向けて素早い対応を心掛けている。	家族の来訪時等に、意見や要望を聞き出すよう努めている。出された意見や要望は、管理者が出席する運営会議で報告したり、事業所内で検討して運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ワーカーク会、個人面談や日頃のヒアリングで意見を聞き、個人の成長だけではなく職員全体の成長と専門性の向上に努めている。	法人や事業所内の各種会議、また管理者と職員の個別面談を行っている。職員一人ひとりの意見や提案を聞く機会を設けており、運営面に反映するよう努めている。しかし、自己評価を全職員で行うなどの取り組みは見受けられない。	自己評価は、日頃の支援のあり方を全職員で話しあい、共有することのできる機会であることから、管理者のみの実施に留まらず、全職員で取り組まれるよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表等を参考にし、一定のレベルにあるものは面談し、正規職員としている。又自己の目標に対する自己評価を全職員が記入し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、知識・技術の向上の勉強会を行っている。また資格取得にむけた勉強会も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の福祉関係者の集まりへの参加。また研修を通して意見・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった際には本人の所へ訪問し、本人から聴取するようにしている。また定期的に声かけを行い、心配事がないか聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった際には、必ず家族と面会し、相談・要望等に応えている。また面会時に声掛けを行い、相談・要望がないか聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を十分に見極め、フォーマルサービス・インフォーマルサービスを視野に入れながら紹介できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事等で、どのような味付けがいかかなどのアドバイスをもらう。また畑作業ではいろいろと教えてもらうことがあり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに状況の報告を行い、その都度状況に応じて、共に考え支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の社会との関係状況・入居後の状態を把握・考慮し、支援に努めている。	事業所では、本人が入居前に利用していた馴染みの理・美容院への送迎を行ったり、近隣住民の来訪や電話連絡の支援をしたりしている。また、自宅の様子を見に帰ることもあり、馴染みの場所や人との関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方や関係が悪くなっている場合には、朝・昼の申し送りに対応策について話し合いをし改善するように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方には、定期的なお見舞い、また他施設へ入居の際には細やかな情報の報告を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活歴や馴染みの暮らし方を本人・家族から聞き取りを行い、以前の環境に近づけるよう努めている。	入居前の段階で、本人や家族、関係者から暮らし方の希望等を聞くようにしている。入居後は、担当職員が中心となって、日ごろの言葉や表情、態度等からその時々々の思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時又は入居前に在宅ではどのように過ごされていたか聞き取りを行い、以前の環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表により現状を把握している。また定期的な再アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に本人・家族より要望・希望の聞き取りを行い、多種職が集まり会議を行い作成している。	本人のより良い暮らしを支援するため、あらかじめかかりつけ医等の関係者の意見を得るようにしている。介護計画の作成にあたっては、職員間で協議するようにしている。3か月ごとにモニタリングを行っている。利用者の状態変化に応じて、随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケースを1人2回以上記入し、情報の共有やプランの見直しに役立っている。また記録の取り方を研修で学んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個別の対応ができるように努めている。また前もって聞き取りを行い、個人の趣向にあったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理髪店の利用、古くからのかかりつけ医での受診等地域での利用、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医・希望受診医院の聞き取りを行い、継続して受診ができるようにしている。また主治医には些細な事でも報告・相談をしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の都合等から、職員だけで受診に付きそうこともあり、日ごろの状態報告や相談等の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまめな様子観察を行い、変化のあった方の状態を看護師へ報告するようにしている。また看護師から主治医に報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に定期的に様子を伺いに行き、医師・看護師とその都度状態についての話し合いを行っている。また家族とも早期退院に向けての話し合いをこまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望、主治医の意見、事業所の出来ることを相談し合い方針を共有している。	利用者一人ひとりの心身状況や希望等に応じて、主治医や関係者間で話し合って対応を検討し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して実践で対応できるように訓練している。またマニュアルの整備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間・夜間想定にて訓練を行っている。また消防署、役場等との情報交換等連携を図っている。災害用備蓄は3日分確保している。	年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。その時には、近隣住民にもお知らせし、参加を呼びかけるとともに災害時の協力依頼を行っている。災害時に備え、3日分の食糧を備蓄している。	

自己	外部	項目	1F		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・倫理に関する研修を行い徹底している。	全職員が、倫理研修会等に参加し、人格の尊重とプライバシー確保について学習し、日ごろの支援に活かしている。とくに、利用者の呼称や声かけ、トイレ誘導時などの対応に留意し、一人ひとりの尊厳を傷つけることのないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あと職員は、		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、自由に過ごせるようレクリエーション等のメニューも用意するが本人の意見を聞きながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また整髪も馴染みの美容院へ行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから入居者の意見を聞き、共に調理・片付けを行っている。食事会も定期的に行っている。	管理栄養士からアドバイスを得ている。事業所では、献立の作成から調理まで、利用者と職員がそれぞれの役割を果たしつつ、一緒にテーブルを囲んだり、希望に応じて外食する機会を設けたりして、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、摂取量の少ない場合には捕食を提供する等の対応を行っている。また咀嚼のレベルに応じ食事を工夫している。栄養に関しては同法人の管理栄養士よりアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る方は自分でしてもらい、介助の必要な方は介助にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別の排泄パターンを検討し、個別に声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄ができるだけ出来るように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に声かけや誘導を行っている。トイレでの自立した気持ちの良い排泄を支援しており、オムツを利用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職・看護職で話し合い、水分量を増やす、運動量を増やす等の対応により下剤や浣腸の使用を控えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は、いつでも入浴できる準備を行い、希望者はいつでも入浴できるように対応している。	毎日、入浴する事のできる準備を行っている。利用者の体調や希望に応じて、週3回から5回程度は入浴することができるよう支援している。足湯を取り入れたり、菖蒲湯やゆず湯を用意したりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等を考慮しながら、快適な睡眠・休息がとれるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬手帳等により薬品名・副作用を確認している。また服薬チェック表を使い、管理している。状態を主治医に定期的に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に職歴や趣味等の聞き取りを行い、日々の暮らしの中で役割が持てるように配慮している。また外出や散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・お茶会を定期的実施している。また癒しの日や家族に協力を依頼し、個々の希望に沿えるように努めている。	利用者は、日頃の散歩のほか、庭園やウッドデッキで過ごしたり、チューリップ公園で作業をしたりしており、個別に外気に触れる機会が多い。月1回、食事会やお茶会、ドライブ、外出を楽しんでもらっている。また、月1回の“癒しの日”には、特別な外出を楽しむこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、家族の了解を得て本人に現金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族や友人に電話をかけたり、手紙のやり取りができる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節は体調面を考慮し、設定している。又季節に応じた装飾を行い、季節感を感じられるように配慮している。	共用空間には、ハロウインの飾りつけや書道の作品、行事の写真等を掲示しており、季節感と温かさを感じることができる。広々としたホールや廊下には、椅子やソファが配置している。畳の間も設けており、利用者が思い思いにくつろぐことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室のため、個人の空間の確保は出来ている。またホールには数ヶ所に椅子等があり、数人で会話ができる空間もあり、活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭から馴染みのある物を持ち込み、入居前にできるだけ近い環境となるよう家族と相談し、工夫している。	備え付けの筆筒と整理棚以外は、利用者一人ひとりの使い慣れた物を持ち込んでもらっている。利用者は、居室内に家族や行事の写真を飾るなど、その人らしい居室環境となっている。入口には、利用者の名前以外に担当職員の名前と写真を貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、できるだけ自立歩行ができるよう、またトイレ等には場所が分かりやすいよう張り紙をし工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げている。また法人全体の理念と共に朝礼時に唱和し、実践に繋がるよう確認し、意識づけを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のイベント・運動会等への参加、また近隣中学校との交流がある。買い物会等で地域住民と交流が図れるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い高齢者また高齢者を抱えている家族へなにか困ったことはないか呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・役場職員等に参加して頂き、そこで出た意見・要望について職員間で周知、検討を行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月報等により現状報告を毎月行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会で身体拘束についての学習を行っている。現在身体拘束の対象となる入居者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会で虐待、倫理についての学習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、全職員が把握できるように努め、相談があった場合には対応ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず重要事項説明書にて説明を行い、疑問点等がないかを確認している。疑問点があれば回答をし、納得いただいてから契約を結び利用していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には気軽に何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。意見・要望が出た時には改善に向けて素早い対応を心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ワーカ一会、個人面談や日頃のヒアリングで意見を聞き、個人の成長だけではなく職員全体の成長と専門性の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表等を参考にし、一定のレベルにあるものは面談し、正規職員としている。又自己の目標に対する自己評価を全職員が記入し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、知識・技術の向上の勉強会を行っている。また資格取得にむけた勉強会も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の福祉関係者の集まりへの参加。また研修を通して意見・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった際には本人の所へ訪問し、本人から聴取するようにしている。また定期的に声かけを行い、心配事がないか聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった際には、必ず家族と面会し、相談・要望等に応えている。また面会時に声掛けを行い、相談・要望がないか聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を十分に見極め、フォーマルサービス・インフォーマルサービスを視野に入れながら紹介できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事等で、どのような味付けがいいかなどのアドバイスをもらう。また畑作業ではいろいろと教えてもらうことがあり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに状況の報告を行い、その都度状況に応じて、共に考え支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の社会との関係状況・入居後の状態を把握・考慮し、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方や関係が悪くなっている場合には、朝・昼の申し送りでは対応策について話し合いをし改善するように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方には、定期的なお見舞い、また他施設へ入居の際には細やかな情報の報告を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活歴や馴染みの暮らし方を本人・家族から聞き取りを行い、以前の環境に近づけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時又は入居前に在宅ではどのように過ごされていたか聞き取りを行い、以前の環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表により現状を把握している。また定期的な再アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に本人・家族より要望・希望の聞き取りを行い、多種職が集まり会議を行い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケースを1人2回以上記入し、情報の共有やプランの見直しに役立っている。また記録の取り方を研修で学んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個別の対応ができるように努めている。また前もって聞き取りを行い、個人の趣向にあったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理髪店の利用、古くからのかかりつけ医での受診等地域での利用、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医・希望受診医院の聞き取りを行い、継続して受診ができるようにしている。また主治医には些細な事でも報告・相談をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまめな様子観察を行い、変化のあった方の状態を看護師へ報告するようにしている。また看護師から主治医に報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に定期的に様子を伺いに行き、医師・看護師とその都度状態についての話し合いを行っている。また家族とも早期退院に向けての話し合いをこまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望、主治医の意見、事業所の出来ることを相談し合い方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して実践で対応できるように訓練している。またマニュアルの整備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間・夜間想定にて訓練を行っている。また消防署、役場等との情報交換等連携を図っている。災害用備蓄は3日分確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・倫理に関する研修を行い徹底している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から希望・要望を聞き出すことができるような雰囲気作りに努め、自己決定ができるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、自由に過ごせるようレクリエーション等のメニューも用意するが本人の意見を聞きながら実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また整髪も馴染みの美容院へ行けるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから入居者の意見を聞き、共に調理・片付けを行っている。食事会も定期的に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、摂取量の少ない場合には捕食を提供する等の対応を行っている。また咀嚼のレベルに応じ食事を工夫している。栄養に関しては同法人の管理栄養士よりアドバイスを受けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る方は自分でしてもらい、介助の必要な方は介助にて対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別の排泄パターンを検討し、個別に声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄ができるだけ出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職・看護職で話し合い、水分量を増やす、運動量を増やす等の対応により下剤や浣腸の使用を控えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中は、いつでも入浴できる準備を行い、希望者はいつでも入浴できるように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等を考慮しながら、快適な睡眠・休息がとれるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬手帳等により薬品名・副作用を確認している。また服薬チェック表を使い、管理している。状態を主治医に定期的に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に職歴や趣味等の聞き取りを行い、日々の暮らしの中で役割が持てるように配慮している。また外出や散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・お茶会を定期的実施している。また癒しの日や家族に協力を依頼し、個々の希望に沿えるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、家族の了解を得て本人に現金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族や友人に電話をかけたり、手紙のやり取りができる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節は体調面を考慮し、設定している。又季節に応じた装飾を行い、季節感を感じられるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室のため、個人の空間の確保は出来ている。またホールには数ヶ所に椅子等があり、数人で会話ができる空間もあり、活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭から馴染みのある物を持ち込み、入居前にできるだけ近い環境となるよう家族と相談し、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、できるだけ自立歩行ができるよう、またトイレ等には場所が分かりやすいよう張り紙をし工夫している。		